

私は、もったいない図書館が大好きです みなさんにも図書館の魅力に気づき、 本を読むすばらしさを実感してほしい

ことを誇りに思っています。この六年間、本の良さを伝える活動を何度も何度も行ってきました。ですが、あまり町の方々に伝わっていないように感じます。本の町矢祭と謳っているわりには、積極的に本に触れる人をあまり見受けられないのが現状です。

本を読むメリットはたくさんあります。知識や教養が身についたり、語彙力・文章力が向上したりします。そして、いろいろな価値観を知ることによって視野を広げることが出来ます。私は、一歳にもならない頃から両親に、毎日のように絵本を読み聞かせてもらっていました。そのため、小学生になった時には本に触れる習慣がついていて、私はその頃からずっと本が好きです。覚えていた範囲で、私が人生で初めて読んだ本は、小学二年生の時の夏休みに読んだサンテグジュペリの「星の王子さま」です。この本には、王子さまが自分の星を離れ、違う星を転々と旅していく場面があります。他人のために命令を出す王さま、酒を呑むことを恥ずかしががる呑助、数秒ごとに街燈を付けては消す点燈夫。星はみな一様に公転しているというのに、それぞれ星には全く違う誰かが住んでいるのです。小学二年生の私にはわからない描写がたくさんありましたが、今となって読み返してみると、いろいろな価値観を知り、自分の中で世界が大きく広がっ

たからこそ理解できるものだったのだと感じます。今まで何百冊と本を読んできて、たくさん知識や教養を学び、語彙力や文章力を得て、そしてさまざまな価値観に触れることで自分の中の視野が広がりました。自分と違う考えを持つ人がほとんどの世界でなんとかうまくやっていけるのはそのおかげだと思っています。本のメリットから得られるものはなにもそんな壮大なことだけではありません。例えば、本をたくさん読むと必然的にたくさん漢字や文法が目に入ってくるようになります。漢字や文法、単語、読む本によっては歴史や科学、数学など多くの学びにつながるのです。本を読んで楽しんでいううちに勝手にいろんなことを学んでいるのだと感じています。

このように、本には多くのジャンルがあり、それぞれ異なる良さをもっています。ミステリーやファンタジー、エッセイなどたくさんジャンルのジャンルがあるため、自分に合った作品が見つけれられるはず。とは言え、自分の力だけで本を開くのはまだ気が進まないと思う方もいるでしょう。だから図書館があるのです。私達には、行こうと思えばすぐに行ける場所に図書館があるのではないですか。わざわざ書店に行ってお金を使わずとも、図書館に行けば何万冊もの本があります。きつと心惹かれる一冊に出会えるはず。です。

図書館の本は全国から集められた奇贈書が多くを占めています。つまり、奇贈してくださった方々が好きだった本がこの矢祭町のもったいない図書館に集められているということ。そう考えるととても素敵な場所に思えてきませんか？私がこの六年間関わり続けてきた、大好きなもったいない図書館は、全国の方の思いに溢れているのです。たくさんの方に大切に読まれてきた本が自分の手の届くところにあって、いつでも手に取ることが出来る、そんなもったいない図書館が私には大好きです。だからこそみなさんにはもったいない図書館の魅力に気づいてほしい。そして本を読むことの素晴らしさを実感してほしいのです。

最後に、かの有名なウォルト・ディズニーの言葉を紹介させていただきます。

「宝島の海賊たちが盗んだ財宝よりも、本には多くの宝が眠っている。そして何よりも毎日宝を味わうことができる」

夢の国ディズニーランドの生みの親である彼が語る、本の中に眠る財宝以上の宝とは何か。それは本の魅力に気づいた人にしかわからないものです。ですから図書館に足を運び、本を手に取り、開いて、宝を見つげるための旅に、出かけてみませんか？図書館に行くことは、宝の地図を開くことと同じことなのです。

宝の地図



矢祭中学校3年

深谷 凜 さん

私は小さい時から本が好きで
小学4年生から約6年間、
図書館と関わってきました

みなさん、私たちの住む矢祭町に図書館があることを知っていますか。もちろんみなさんご存知ですね、そう、もったいない図書館です。では、もったいない図書館で本を借りたことがある、そして、頻繁にいくという方はいますか。普段の利用者を見る限りみなさん全員、というわけにはいかないと思います。もったいない図書館の存在を知っているのにみなさんが頻繁に行くわけではないのは、いったいなぜでしょうか。それは簡単にいうと図書館だからです。もしもったいない図書館が、もったいない遊園地だとしたらどうでしょう。お子さんから大人の方、遊びに来た観光客で連日大賑わい。矢祭町はもったいない遊園地のおかげで大人気、なんてことになるでしょうね。ですが、矢祭町にあるのは図書館です。私が言い

たいのは遊園地が欲しい、ということではありません。ぜひ図書館に来て本に触れて欲しい、ということ。です。

私は、小学四年生で子ども司書に認定されました。子ども司書というのは図書館の仕事や本に関する知識を一年間の活動を踏まえて学んだ人が認定されるものです。そして小学五年生で子ども司書から子ども読書推進リーダーになりました。その名の通り、読書を推進する子どものリーダーです。そして、去年、中学校に新しくできた特設図書館部という部活動に入部し、今も活動を行っています。つまり私は約六年間、図書館と関わってきたということになります。小さい頃からずっと本が好きで親しみを持っていたので、子ども司書に認定していただき、中学三年生になった今も図書館の役に少しでも立てている